

2022  
11・26  
(土)

↓

2023  
1・22  
(日)



津奈木の新しい  
昔話発祥の瞬間

# たろうつなぎプロジェクト成果展 おどまりバス わたし話画

- 開館時間 …… 10:00～17:00 (入館は16:30まで) ● 休館日 …… 水曜日(祝日の場合は翌平日) ● 会場 …… 1・3階展示室
- 観覧料 …… 一般 300円(250円)、高校・大学生 200円(150円)、小・中学生 100円(50円)  
※( )内は20名以上の団体料金。※水俣市・葦北郡内の学校による利用は事前申請により無料。※津奈木町在住または津奈木町の学校に在籍する小・中学生は無料。
- 主催 …… つなぎ美術館(津奈木町)
- 協力 …… 熊本市現代美術館、島田美術館、特別養護老人ホームつなぎの里、特別養護老人ホームあけぼの苑、京都美術工芸大学、  
虚屯出版(カラクリワークス株式会社)、UMMM
- 助成 …… 公益財団法人 水俣・葦北地域振興財団  
※この事業は、水俣・葦北振興計画に基づく地域振興事業として、水俣・葦北地域振興財団の助成により実施しています。



たろうつなぎプロジェクト成果展

# たろうと ニッポン画 わたし話

Taro and Nipponga Watashi Banashi

2022 2023

11月26日(土)→1月22日(日)

●作家:

たろう ニッポン画家

1974年、熊本県生まれ。京都造形芸術大学(現・京都芸術大学)美術学科日本画コースで学ぶ。在学中に、伝統日本画の技法をベースにした古典絵画に、ユーモアやパロディを感じさせる現代的な要素を加えた「ニッポン画」を提唱。2013年より秋田公立美術大学の准教授を務め、2018年から2022年3月までは母校京都芸術大学で准教授を務める。日本での展覧会やプロジェクトなどの活動をはじめ、企業とのコラボレーションや海外での活動も行っている。2007年の『VOCA賞』、2015年の『京都市芸術新人賞』など多くの受賞歴を持つ。京都市在住。



●関連プログラム:

アーティストトーク

アーティストの話を聞きながら展示室を巡ります。

日時: 11月26日(土) 14:00~14:30

ゲスト: たろう

会場: 1・3階展示室

定員: 20名(申込不要・当日先着順)

参加費: 観覧料

対談

芸術人類学の視点を交えてプロジェクトを振り返ります。

日時: 2022年12月11日(日) 14:00~15:30

ゲスト: たろう

石倉敏明(秋田公立大学准教授・芸術人類学)

司会: 楠本智郎(つなぎ美術館学芸員)

会場: つなぎ文化センター(つなぎ美術館向かい側)

定員: 50名(申込不要・当日先着順)

参加費: 無料

※内容が変更になる場合はホームページとSNSでお知らせします。

HP:



●本展について:

「たろうつなぎプロジェクト」は、ニッポン画家のたろうと住民と一緒に津奈木の過去と未来を繋ぐ“新しい”昔話を生み出すアートプロジェクトです。たろうは、津奈木に長く暮らしている人々から、たくさんの話を聞きました。どんな出来事に直面して、何を感じたのか。津奈木に起こったこと、その時代にしかなかったこと、その人だけが経験したこと。多くの人が体験したこと、それぞれの人の気持ち。津奈木で生まれたいろいろな「わたし話」を切り貼り貼ったりしながら、五つの“新しい”昔話を作りました。子どもたちは五つの“新しい”昔話を読んで挿絵を考え、たろうはそれをヒントに津奈木で使われなくなった襖などにニッポン画を描きました。本展では、これらの作品とプロジェクトのプロセスのほか、たろうの過去の作品も展示します。新しく昔話が語られ始める瞬間でもある本展をぜひご覧ください。



《四季新日鶴堂図》2009年 熊本県現代美術館蔵

## 「おかしむかし」が 生まれる。 ここから 語り 継がれる、 新しい 津奈木の 昔話。



《熊本のわたしの屏風 森本潤夫氏資料展》2017年 島田美術館蔵

昔話を  
新しく作っても  
いいんじゃない?  
いんぱんつけ?

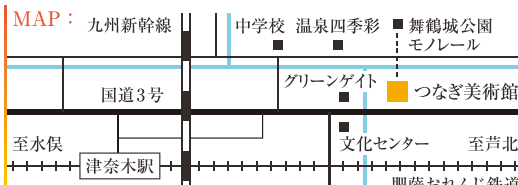


つなぎ美術館  
TSUNAGI ART MUSEUM

〒869-5603 熊本県葦北郡津奈木町岩城 494  
TEL: 0966-61-2222 / FAX: 0966-61-2223  
www.tsunagi-art.jp

交通アクセス:

- 九州産交バス つなぎ温泉前バス停から徒歩 2分
  - 肥薩おれんじ鉄道 津奈木駅から徒歩 10分
  - 南九州西回り自動車道 津奈木IC から車で 3分
  - JR 九州新幹線 新水俣駅から車で 10分
- ※運行状況・道路状況は事前にお調べください。



# 昔話って、昔と今と未来を繋ぐタイムマシンかも

2022 11.26 (土)

2023 1.22 (日)



昔話津奈木の新しい発見

# 新しい昔話

だんごつなぎプロジェクト成果展

つなぎ美術館

〒八六九-五六〇三 熊本県羣北郡津奈木町岩城四九四 TEL:0966-161-2331 FAX:0966-161-2333

## Ⅰ 笛吹男と130人の子どもたち



そんなとき不思議な音色の笛を持った男が村に現れました。

むかしむかし、あるところに村がありました。ある年、その村に多くのネズミが出ました。ネズミは小麦や米を食い散らかしたり魚を獲る網をちぎってしまったりするので、村人たちは困り果てていました。そんなとき不思議な音色の笛を持った男が村に現れました。その笛は海の向こうのクダラと呼ばれる国のも

のようでした。その男は「わたしがこのネズミを追い払ってあげましょう。成功したら米を十俵いだけたい！」と申し出ました。しかし村人たちは半信半疑です。ある夜、村は笛吹男の不思議な音色に包まれました。するとどうでしょう！たちまちネズミたちが笛の音に合わせて踊り……(続)

## Ⅱ 黄金姫(こがねひめ)……



その果実は何？



むかしむかし、あるところに130人の子どもたちのそのまた子どもたちが暮らす村がありました。ある日、女の子が産まれました。元気に泣くその子を抱え上げるときわわ輝く朝日に照らされたので、黄金姫と呼ばれました。お母さんは黄金姫が小さい時に亡くなってしまいました。お父さんは黄金姫のために

と、新しいお母さんと結婚しました。新しいお母さんは別の子どもを8人連れてきました。でもいつもお酒を飲みタバコを吸っていて世話も仕事もしません。黄金姫は赤ちゃんを背負い、海で魚を獲り、畑で野菜を育てました。ある時、猫が見たこともない美しい果実で遊んでいました。それは……(続)

## Ⅲ 孝女チヨ……

むかしむかし、あるところに笛吹男と猫と130人の子どもがたどり着いたオオドラリという港がありました。130人の子どもたちはそこに村を作りました。村の暮らしはとても豊かで130人の子どもたちはすくすくと育ち、いつしか大人になり結婚し子どもを産むようになりました。それから何年経ちま

した。村にチヨという大変頑張り屋さんの女の子がいました。チヨにはおじいさんとおばあさん、お父さんとお母さん、そしてお兄さんが4人いましたが、みんな遠い国で起こった戦いのために死んでしまいました。そして家にはおじいさんとおばあさんとチヨだけが残されました……(続)

チヨは言われるがまま、恐る恐る林の中に入りました。

## Ⅳ メジロ太郎……

むかしむかし、あるところにむかしむかしのようによく甘い実がたくさん採れる村がありました。村に太郎という男の子がいました。太郎はメジロ獲りが大の昔手でした。100回メジロ獲りに行って、ただの1回も獲れないのです。太郎は100回目に挑戦してみましたがやっぱり1羽も獲れませんでした。

キミは何があつても101歳まで生きるだろう。

あきらめて帰ろうと立ち上がった時、一羽のメジロが太郎の上に飛んできて言いました。「キミが失敗した101回は、101羽の仲間たちを助けたのと同じこと。キミは何があつても101歳まで生きなさい。」そう言つとメジロはあつといふ間にどこかへ飛んでいきました。太郎は……(続)

## Ⅴ 伍太夫どん……

伍太夫どんは人と人が憎しみ合う戦には行きたくありません。

むかしむかし、あるところに病気が流行ったり戦が起こったりするような村がありました。その村にひととき大きな体をして力が強い、伍太夫どんと呼ばれる男の子がいました。ある日、伍太夫どんとお母さんが乗っているバスがパンクしてしまいました。伍太夫どんはバスにロープを引っ掛けて、お母

さんに乗せたまま目的地までひとりで引っ張っていきましました。そのくらい、大きくて力が強かったのです。しかし、伍太夫どんはあまりに大きく力が強かったので、村の人は恐ろしくて近寄りませんでした。伍太夫どんはそのことを密かに寂しく思っていました。ある日の村でまた戦が起こりました……(続)

# 津奈木のみなさんの「わたし話」から生まれた、“新しい”昔話とニッポン画。